

# ABJ Seattle Glass Online

## 2005 Kazuo Kadonada

国際ミンゲイ美術館 / 2005年5月21日～8月2日

この展覧会は、サンディエゴ芸術文化委員会とサンディエゴ郡のコミュニティ強化プログラムの一部によって資金提供されました。

展覧会では、ガラス、木、紙、竹から作られた彫刻が展示されました。

角永和夫が1971年に本格的にアートを始めるとき、彼は最初に木を扱うことを選びました。彼の家族は製材所を営んでいたため、彼は子供の頃からこの資料に精通していた。角永は、木材の材料構成を明らかにするシステムを作成することに専念しました。彼は特別な種類の木材を選ぶのではなく、日常生活で使用される種類の木材を扱いました。彼はまず、ベニヤスライサーを使って四角い丸太をスライスしました。次に、これらの薄いスライスを積み重ねて、四角い丸太の元の形を再現しました。自然乾燥後、木材は反り始め、外形が変化するにつれて、目に見えない材料特性が明らかになりました。

彼の紙の作品では、角永は手作りの紙を何枚も積み重ね、まだ乾燥している間にそれをプレスの下に置きます。その後、片側でシートを分離します。片面の薄いシート（通常は用紙の自然な形と考えられているもの）と、もう片面が圧縮されたままである用紙のブロックとのコントラストは、用紙の物理的な品質を効果的に示しています。引き剥がされた部分は、繊維の弾力性により自然に膨らみます。これらのペーパーワークは、材料の構成をはっきりと見える方法で示しています。

また、3つの大きなガラス彫刻も見られました。通常の板ガラスの原料を炉で溶かした後、細い注ぎ口から一定量の溶けたガラスが48時間かけて連続的にその下の徐冷炉に流れ込みます。彫刻の形は、重力と溶けたガラスの粘性によって作成されます。徐冷オープンでは、ガラス塊に亀裂が入るのを防ぐために、温度を徐々に下げます。作業をオープンから取り出すまでに100日待つ必要があります。この厳しいプロセスには、大規模な施設が必要です。それは完全にコンピューターによって制御され、人間の労働者は原料を炉に入れて温度をチェックすることによってのみ参加します。

また、3つの大きなガラス彫刻も見られました。

通常の板ガラスの原料を炉で溶かした後、一定量の溶けたガラスが細い口から下の徐冷炉に48時間かけて流れ続けます。彫刻の形は、重力と溶けたガラスの粘性によって生み出されます。アニールオープンでは、ガラス塊に亀裂が入るのを防ぐために、温度を徐々に下げます。作業をオープンから取り出すまでに100日待つ必要があります。この厳しいプロセスには、大規模な施設が必要です。それは完全にコンピューターによって制御され、人間の労働者は原料を炉に入れて温度をチェックすることによってのみ参加します。

完成したガラスの塊は、ガラスの材料特性を見る人にすぐに明らかにします。これらの作品の中で、角永はガラス自体の内部特性を含め、ガラスの物理的性質を明らかにします。それらは以前の抽象的なガラス彫刻とは著しく異なります。

展示会には、壁に立てかけられた15フィートの長さの蜂蜜色の竹のグループが含まれていました。窯の乾燥によって生み出されるそれらの色は、彼が使用する材料の自然な変化に対する角永和夫の興味の別の例です。

10分間のビデオテープ「角永和夫、ガラスのピース。展覧会の期間中に演奏された、彼の独特の彫刻の制作を示す4」。

アーティストとしてのキャリアを通じて、私は意識して美しい「アート」オブジェクトを作成するのではなく、日常生活で見つかるマテリアルの固有の性質を探り、これらのマテリアルを自然に変換するシステムを開発することにもっと興味を持っていました。

-角永和夫

Unknown. Mingei International Museum,  
San Diego.

"ELEMENTAL MATERIALS IN CONTEMPORARY ART"

| May 21, 2005 | Oct 02, 2005".

Website Accessed June 17, 2009.

<http://www.mingei.org/exhibitions/detail.php?EID=>